

2025 年度 日本建築学会近畿支部

親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ」終了報告書

日時：2025 年 8 月 23 日（土）10:00～17:00

場所：学校法人京都建築学園京都建築専門学校

本企画は小中学生と保護者を対象とし、京都の町家などに今なお利用されている伝統技術の一つである土壁について学び体験し、それを通して伝統技術や京町家・建築について興味を持ってもらうことを目的とするものである。本企画は 1995 年兵庫県南部地震による阪神淡路震災を契機に開始され今年で 21 回目の開催となり、子どもと保護者は一緒に小舞編みや荒壁塗りに一日かけて挑戦し、また京町家を改修した校舎の見学も行った。今年度は 15 組の定員に対し 19 組の応募があり抽選を行った。京都建築専門学校の本校舎をメインの会場としてお借りし、当日は欠席も若干組あったが、児童・生徒 16 名、保護者 14 名、学生ボランティアを含めたスタッフ 12 名の計 42 名で実施した。本企画は日本建築学会近畿支部および学校法人京都建築学園京都建築専門学校による共催、京都市、京都市教育委員会および公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターの後援、京都府建築工業協同組合・京都府左官技能専修学院の協力のもと実施された。

午前 10 時に京都建築専門学校本校舎 3 階に参加者とスタッフが集まり、司会進行を務める長嶋常議員（京都大学）の開会あいさつとともに建築教室はスタートした。はじめに、杉野常議員（京都大学）から「土壁のひみつ」と題して 10 分程度のレクチャーを行った。レクチャーの中では土壁がどんな材料でできているかや京都の町中にも土壁を有する建物が多く存在していること、建築教室終了後に町で土壁を探してみようなどの話があった。次に、参加者およびスタッフの自己紹介を行い、京都建築専門学校の佐野春仁校長から当日のスケジュールについての説明が行われた。最後に、当日はケーブルテレビによる取材撮影が行われる旨といくつかの注意点について周知し、参加者は準備の後本校舎 1 階ビロティの作業場に移動した。

午前中は小舞編みの実習を行った。あらかじめ用意した木枠に竹小舞を縦横に配し、荒縄で固定する工程である。まず佐野校長が説明をしながら実際の作業をやって見せ、その後佐野校長や京都府左官技能専修学院の佐伯棟梁、学生ボランティアのサポートのもと参加者が小舞編みに挑戦した。7 台の木枠に 13 組の参加者が分かれて作業を行ったため、高いところは高学年の子が担当し低いところを低学年の子に任せるなど、家族間で協力する姿が見られた。はじめに荒縄を間渡竹に括り付けるところから苦戦する様子も見られたが、多くの小舞竹を括り付けていくうちに上達し、どの木枠でも上手に小舞を編むことができた。

お昼休憩の後には、参加者は 2 班に分かれて京町家を改修した京都建築専門学校よしやまち校舎の見学を行った。佐野校長によしやまち校舎の解説をしていただき、もともとはかまぼこ屋だった京町家に耐震補強を施したことや、なぜ押し入れの中に 2 階へ続く階段があるのか、京都の職人にしかできない伝統技法で仕上げられた聚楽土の土壁などについてお話をうかがった。子どもたちは持ち前の好奇心を発揮し、佐野校長のお話を聞くだけでなく、閉まっている襖の奥

を覗いたり中庭の井戸に興味を持ったりなど思い思いに伝統建築の町家を楽しんでいた。

午後は荒壁塗りの実習を行った。午前中に作成した小舞編みの上に土とわらを混ぜ発酵させたものを塗っていく工程である。本工程も佐野校長や佐伯棟梁が手本を見せつつ、参加者一同で鍬と鍬板を用いて荒壁を仕上げていった。荒壁として塗る土は思った以上に重く、小舞編みに土を塗り付けることもさることながら鍬板上の土を鍬に載せることも難しく、参加者も始めは苦戦していた。うまく塗り付けることができず泣いてしまった子もいたが、何度も挑戦するにつれコツをつかみ、最後には土壁塗りを楽しんでいた。皆で力を合わせて用意した木枠の両面全部に荒壁塗りを施すことができた。

参加者が荒壁塗りを体験した後に、佐伯棟梁による中塗りの実演が行われた。棟梁の醸し出す真剣さ・緊張感に会場は静まり、参加者・スタッフ一同声も出さずに棟梁の中塗りに見入っていた。中塗りの実演が終わるとその熟練の技やできあがった壁のきれいさに拍手が沸き起こった。

実習終了後は本校舎3階に戻り、参加者に休憩をとりつつアンケートに記入していただいた。その後、各家族に一言ずつ感想を述べていただき、小舞を編んだり土壁を塗るのが楽しかった、京都の伝統技術に触れられてよかった、などの声をいただいた。次に、仁井常議員（京都大学）から参加者の子どもたちへ立派な親方の証明として「ちびっこ親方」の修了証が授与された。稲益常議員（京都大学）による全体講評、佐野校長による講評をいただき、京都大学の学生ボランティアが当日習ったことのまとめを発表した。A3用紙2枚にスケッチでまとめたものをコピーして配布し、用語や手順などを分かりやすくふりかえった。最後に佐野校長からご挨拶をいただき、今年度の土壁塗り教室は終了となった。

今年も大変暑い中で屋外での実習となったが、幸い体調を崩す人も出ず教室を終えることができた。講師の方々や京都建築専門学校および京都大学の学生ボランティア、その他ご協力いただいた方々のおかげで無事成功裏に収めることができた。関係者各位に感謝の意を表したい。

日本建築学会近畿支部 常議員
長嶋史明（文責）・仁井大策・杉野未奈・稲益博行

